

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度 第2回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	平成30年3月23日(金) 午後6時00分から 午後7時10分まで
開 催 場 所	吉川市役所第2庁舎204会議室
出席委員(者)氏名	手塚崇子委員(会長)、玉生一美委員、五十嵐修委員、新井一弘委員、黒木武美委員、吉岡弘美委員、水野和希委員
欠席委員(者)氏名	高井良奈緒美委員
担当課職員職氏名	こども福祉部長 伴茂樹 こども福祉部副部長兼保育幼稚園課長 本間貴明 こども福祉部子育て支援課長 山崎純子 こども福祉部障がい福祉課長 日暮康博 こども福祉部保育幼稚園課 課長補佐兼保育幼稚園係長 宮田匡寿 こども福祉部保育幼稚園課 施設運営係長 森田武 こども福祉部子育て支援課 給付・相談係長 坂本祐介 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係長 青柳乃り恵 こども福祉部子育て支援課 子育て支援係 主事 石井賢聖 健康長寿部健康増進課 母子保健係長 稲見絹子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) 吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について (2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について (3) 保育施設の設置について (4) その他 ① 平成30年度児童福祉に関する予算と事業の概要について ② 子どもの貧困対策に係る「子育て世帯生活実態調査」について 4 その他 5 閉会 ※ すべて公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	資料1 吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について 資料2 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について 資料3 新規保育施設の利用定員について 資料4 平30年度児童福祉に関する予算と事業の概要(報告)

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	新井一弘委員、吉岡弘美委員
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	資料の確認
部長	1. 開会 開会の宣言
事務局	2. こども福祉部長あいさつ 20日に3月議会が終了、平成30年度予算について可決されたことを報告する。保育所については、認可保育所が13園、また小規模保育施設が7園となり、平成30年度は計20園で運営されることとなる。未就学児の人数は、平成26年度と比べほとんど変化していないが、保育を希望している保護者については、5年前が23.4%だったのに対し、今年度は35%という現状である。担当部署においても保育所の整備に全力で取り組んでいるが、追いつかない状況となっている。また、運営上、保育士の人材確保が課題となっており、市は今年度から宿舍借り上げ支援や、奨学金返済のための支援を実施している。その他の明るい話題として、児童館では4月2日に国際宇宙ステーションとの交信事業という大きなプロジェクトが予定されており、市民の方々にも反響をいただいている。本日の審議会においては、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したい。
事務局	3. 議事 (1) 吉川市子ども・子育て支援事業計画に係る進捗状況について 【関係資料】 資料1 吉川市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について (事務局より、第1回児童福祉審議会の際質問のあった「寺子屋事業」の概要について説明)

	(質疑応答)
委員	平成28年度において、寺子屋事業は6か所で実施されたとのことであるが、どのように把握したのか。
担当課	事業担当課である生涯学習課より情報提供されたものである。
委員	「地域が中心となった子育て支援」の項目に三輪野江小で実施している「放課後子ども教室」は位置付けされていないのか。
担当課	大きな括りとしては含まれる事業であるが、「放課後子ども教室」は新しい事業であり、第1期の計画では位置づけされていない。次期計画を策定する際には、関係事業について改めて見直しを行い、位置づける必要があると考えている。
委員	「保幼小連絡協議会」の件であるが、各小学校と保育園・幼稚園との交流の深さに差があってはならないと感じている。取り組むべき内容を定めるなど、何か対策をとっているか。
委員	学校長の立場で現状をお伝えする。実際「保幼小連絡協議会」の運営方法や内容について、統一された規程はないが、中曽根小学校の場合、近隣の幼稚園や保育園など3か所と関わりを持ち、毎年1月の下旬より授業見学等の受け入れを行っている。共通して行う事業としては、保育士、幼稚園教諭、学校教諭が参集し、子どもに関する情報交換や事例発表などがある。
事務局	<p>(2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料2 吉川市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査について</p>

委員	<p>(事務局より資料2について説明)</p> <p>(質疑応答)</p> <p>調査対象者の小学生児童については、なぜ小学校4年生までなのか。</p> <p>また、対象者を抽出する方法として、無作為抽出であるとの説明があった。例えば、三輪野江地域や美南地域では持っている課題に違いがあり、地域についても均等に抽出されるべきと考えるがその点はいかがか。</p>
担当課	<p>子育て支援事業に係るサービスを利用しているのは、ほとんど小学校4年生までである。また、前回実施した調査と比較できるようにするため、対象者を変更していない。</p> <p>なお、抽出する地域については、ご指摘のとおりである。抽出の際は地域に偏りが生じないように配慮していきたい。</p>
担当課	<p>(3) 保育施設の設置について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料3 新規保育施設の利用定員について</p> <p>(担当課より資料3について説明)</p> <p>(質疑応答)</p> <p>なし</p>
担当課	<p>(4) その他</p> <p>① 平成30年度児童福祉に関する予算と事業の概要について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料4 平成30年度児童福祉に関する予算と事業の概要(報告)</p> <p>(担当課より資料4について説明)</p> <p>(質疑応答)</p>
委員	<p>児童健全育成事業のホームスタート事業について伺いたい。ビジター養成講座を来年度実施すると聞いたが、現在、活動しているビ</p>

<p>担当課</p>	<p>ジターは何人か。また、講座の周知は、どのような方法で行うのか。</p> <p>現在のジター登録数は24名で、実際に活動できるのは10名程度である。平成24年度、平成26年の2回、ジター養成講座を開催しているが、年々活動できる人材が減少している。そのため、市としてもより多くの人材を養成することは、急務であると考えている。</p> <p>周知方法については、ホームページや市の広報でお知らせすることはもとより、PTAや学校関係者にも協力を頂き幅広くPRしていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>児童手当支給事業について伺いたい。児童数は増加していると認識していたが、平成30年度の予算が昨年度より減少しているのはなぜか。</p>
<p>担当課</p>	<p>児童数については、昨年度と比べ横ばいであるが、世帯の所得については、年々増加傾向にある。制度上の所得を超えた場合、1万円の支給額が5千円になる「児童手当（特例給付）」の対象者割合が増えていることが要因となり、予算上では5千万円程度の減額となっている。</p>
<p>委員</p>	<p>子ども発達センター整備事業について伺いたい。保健センターの2階に移転した場合、利用者定員は増えるのか。</p>
<p>担当課</p>	<p>現在、第二保育所では1教室を活用し、約50㎡の広さで事業を実施している。保健センターの2階へ移転した場合は、機能訓練室など3部屋を使用するため、広さとしては2倍以上になり、定員は20名の予定である。</p>
<p>担当課</p>	<p>②子どもの貧困対策に係る「子育て世帯生活実態調査」について 【関係資料】</p>

	<p style="text-align: center;">吉川市子育て世帯生活実態調査について</p> <p>(担当課より説明)</p> <p>(質疑応答等)</p> <p>委員 貧困というキーワードから、この場をかりて学校現場の実情をお伝えしたい。現在、子どもの家庭環境について、学校側は緊急連絡先以外ほとんど把握できていない状況である。そのため、子どもが家庭や地域に帰った時の様子を確認するのは限界があり、学校間の連携、校長会や生徒指導担当者の情報交換が不可欠となってきた。また、子どもの貧困や虐待を発見するためには、児童相談所や子育て支援課等の関係機関との連携も非常に重要であると強く認識している。</p> <p>会長 様々な機関が関わることで、点が線になり問題の把握が出来る。また、行き場所が一つ見つければ学校に繋がることもあり、連携なくして、有効な支援は出来ないと考えている。</p> <p>委員 民生委員の立場でも同様の問題がある。子どもたちが地域で遊んでいる場でも、なかなか声をかけにくいのが実情である。また個人情報保護の関係で、対応に苦慮する場面もあり、その際は市や児童相談所に連絡をするなどの対応をしている。</p> <p>委員 主任児童委員が市民から相談を受けた場合、すぐに問題を解決することは難しい。そのため、関係機関につなげるという立場で活動しており、今年度は資質向上のため児童相談所から講師をお招きし、研修会にも参加している。</p> <p>委員 P T Aにおいても通学班を作成する役割があり、ある程度の情報が必要である。しかし、学校が持っている情報を共有することは難しいため、家庭環境を把握するのは非常に苦慮している。</p> <p> 今後は、事前に情報提供についての同意をもらうなど対策をたて</p>
--	---

<p>会長</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>る必要がある。</p> <p>子育て世帯生活実態調査の回収率は非常に良いと感じた。また、資料中ヒアリング調査を実施した団体の中に「みんなの食堂（ころあい）」が記載されていたが、この団体と市との連携は素晴らしいと感じている。また、子どもたちを迎え入れるボランティアの方々の雰囲気が非常に良い。これからの課題として「次の世代を育成すること」という話も聞いており、今後の活動に期待している。</p> <p>子ども食堂の所在地はどこか。</p> <p>吉川団地名店会の中にある。月曜日、水曜日、金曜日の夕方5時から7時まで活動している。</p> <p>4. その他</p> <p>事務局からの連絡事項として「児童福祉審議会の来年度の予定について」</p> <p>(主な説明概要)</p> <p>来年度の児童福祉審議会は、年3回もしくは4回の開催を予定している。議題は、第2期子ども・子育て支援事業計画の策定スケジュール等である。今後も引き続き協力をお願いしたい。</p> <p>5. 閉会</p>
---	--

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成30年 4月 6日

署名委員 新井 一弘 自署

署名委員 吉岡 弘美 自署